

プロジェクトK

～ずっと住みたいと思うまちづくり～

プロジェクトKが発足して丸2年が経過したいま、メンバーとして関わってきた町内の方はどのような感想や期待を抱いているのか、お話を伺ってきました。

●「かわね来風」

浜谷友子 事務局長



ゾーホージャパンがプロジェクトKを提案してきたとき、「私たちにできない力を持っている」ということにとても魅力を感じました。今までこの町になかったことでもあったので、自分たちで協力できることがあれば手伝っていきたいと思いました。

この2年間では色々なことに関わってきました。空き家を見つけたり宿舎の整備をしたり、今ではゾーホーのインド人スタッフのためにカレー作りをするようにもなりました。料理を担当してくれている人には「みんなが満足してくれればどんどんゾーホーが規模を大きくしてくれる。町のためにもなる仕事なのだ」と趣旨を伝え、

食事を作るだけの単純な仕事ではないと頑張ってもらっています。

プロジェクトKとしては、ゾーホーへの協力がまず第一段階、そこから新しい会社を、特にIT関係のような「この町に今までなかった職種」を増やしていきたいと思っていますし、そのための協力をしていきたいです。

ほかに、アリノスさんがやっているような農業も元々の町民が興味を持つだけではなく、町外に情報発信をしていくことで「そういった農業ならやりたい」という人たちの移住や定住につながっていくのではないかと思います。この町の若い人が外へ行ってしまふのは「働きたい職場や職種が少ない」という理由もあります。でもそういった新しい職種を増やすということは私たちだけではできません。

そこで、私たちは定期的に首都圏から地域の活性化に興味のある経営者と呼んでもらい交流会を開いています。その人たちは自分たちが知らない世界をどんどん見せてくれます。「こんな職種があるんだ」「こんなことをやっている人がいるんだ」ということを知ることができたし、今まで町になかったいろいろなものをつなげてくれるということが、町の若い人のためになることだと思います。

●「エコティかわね」

神東美希 事務局長



会議の目標である「ずっと住みたいまちづくり」というテーマについては、2／3回目の会議で決まったという記憶があります。最初は「今よりちょっと頑張ればどうにかなる目標」くらいを考えていたのですが、ゾーホージャパンの迫社長から「達成できる目標には何の面白みもない。目標はどうやっても無理だろう」という数値にするから意味がある」と言われ、その時に言われた「難しいことに対して自分たちができることを最速のスピードで」というのが今の会議に続いています。

プロジェクトKでは「活動リスト」を使った会議を行います。今では町内すべての会議がこの方式になればと思っています。リストを作り互いにやったことを報告することで、参加者は「行動する人」だけになります。初めての議題を持ってきてそれから話

し合うのではなく、日々の活動報告に対して話し合うという形式なので、すごくスピードがあります。私たち町の人間だけでは成し遂げられないことも、メンバーの人脉で色々な方とつなげてくれるので、それをきっかけに進めていけるようにもなりました。

決めたらすぐにやるというスピード感は行政だけでは難しいことだと思いますし、民間の私たちですら時々ついていけないことがあります。

この会議は外の人だけでやるのではなく、県や町といった行政がいて、地元の民間も入るという形です。官と民だけでなく、地元と外とのバランスも取れたとてもよい会議だと思います。

プロジェクトKは川根本町の課題がなくなれば終わるはずですが、そんなことはないでしょう。でも「あの人もこの人も」というように規模を拡大していけば意見もまとまらなくなっていくと思います。

私たちにはお互いにならない力を持っている人たちの集まりなので、それぞれが得意分野で協力していけるチームとして、今のバランスを維持した進め方ができればと思います。

7月にサテライトオフィスを開設した「株式会社 経営参謀」は、プロジェクトKの立ち上げ当初からメンバーとして会議に参加していた企業の一つです。

今回のオフィス開設にともない、同社の新谷健司社長にお話を伺いました。

○どのような会社が教えてください

事業内容としては「経営者向けのコミュニティ運営」というもので、会員となっている経営者向けの勉強会や講演会を開催して交流や情報交換の場を提供しており、年会費をいただいで運営しています。

○プロジェクトKに参加した理由は

もともと私どもが行っている勉強会の会員に、ゾーホージャパンの迫社長がいらっしゃたのがきっかけになります。プロジェクトKでいろいろな人が集まって会議を運営していくためには、会議の進行と取りまとめをする役が必要だという話になり、2回目の会議から参加させていただくことになりました。

○オフィスを設置した理由は

一言で申しますと、「本気で川根本町の役に立つことを会社としてやっていこう」という意志を形にしたということです。東京での仕事も続けていきますが、2人で

やっている会社ですので、週3日は東京で、4日は川根本町でといったかたちで2か所でのオフィス運営を考えています。

○2年間かかわってきた町の印象は

ここは田舎なのですが、日本の最先端でもあります。高齢化が進む中で人口が減少している、まさに課題の宝庫といった感じですが、でも、住んでいる人はとてもいい。特に「外部の人を受け入れるのに対して抵抗がない」というのは大きな特徴だと思います。

○これまでのプロジェクトKの感想は

町の企画課の皆さんがすごく柔軟かつスピーディーな対応で積極的に動いてくれるおかげでプロジェクトKがうまく進行しているといった印象です。

ほかの町の話聞いても、ここまでやっているところはなかなかないと思います。

○これまでの活動をふりかえって

目の前の課題を解決するという発想でこれまで活動してきた、それなりに成果は出てきたのですが、「この町が持続していくにはどうなればいいのか」ということがまだよくわかっていないというのが現状です。

最大の目標である「町が存続していく」というビジョンがしっかりとできて、全員がそれを共有できればしっかりとした成果として

○株式会社 経営参謀の新谷社長



これまでの評価ができるのではないかと思います。

○今後について教えてください

現在のプロジェクトKについては「川根モデル」といった形として、ほかの人たちの参考になるものにしていきたいという話はメンバーでしていますが、それを情報発信だけで終わるのか、ほかの地域でも参考にしてやっていこうかという形になるのかはその時の状況だと思います。

最終目標としては、プロジェクトKの目標となる「川根本町をずっと住みたい町にする」という到達点がありますので、そこに至るまでの過程を「川根モデル」という形で整理できればと考えています。